

「現地災害多言語支援センター運営訓練(城陽)」ならびに「事前準備」

(会場：城陽市国際交流協会)

<事前準備:1月19日(日)> 17名参加

*講義「城陽市での災害予測～あなたの住む地域でどんな被害が起こりうるか?～」

- ・城陽市の地勢、インフラ（道路、鉄道等）
- ・地震、風水害で被害（液状化、土砂崩れ等）が起こりやすい箇所を地図で確認

*災害時外国人支援に用いる資料づくり

- ・城陽市に住んでいる（と思われる）外国人の情報を共有
- ・教会や食材スーパーなど、外国人がよく訪れる施設の位置を確認
- ・難読地名リスト作成

(意見、感想など)

- ・外国人がどこに住み、どんな生活をしているか、少し理解できた。
- ・災害時、日本語の理解が難しい外国人に情報を伝える重要さがわかった。

<現地災害多言語支援センター運営訓練:1月26日(日)> 43名参加

*オリエンテーション、講義「災害多言語支援センターの役割」

*災害多言語支援センターの開設・運営

①総務班

- ・現地状況の確認（現地の状況図）
- ・巡回経路の決定

②情報班

- ・情報を仕分け（ライフライン、交通、生活）
- ・情報整理、翻訳原稿作成 ・やさしい日本語に変換→IT班へ

③IT班

- ・翻訳依頼（KPICへメールで依頼）
- ・Web、Facebookへ情報掲載

(参加者からの意見、感想など)

- ・災害時の外国人支援について、大変さを含めてよくわかった。
- ・半年に一度くらいこのような訓練を行った方がよい。